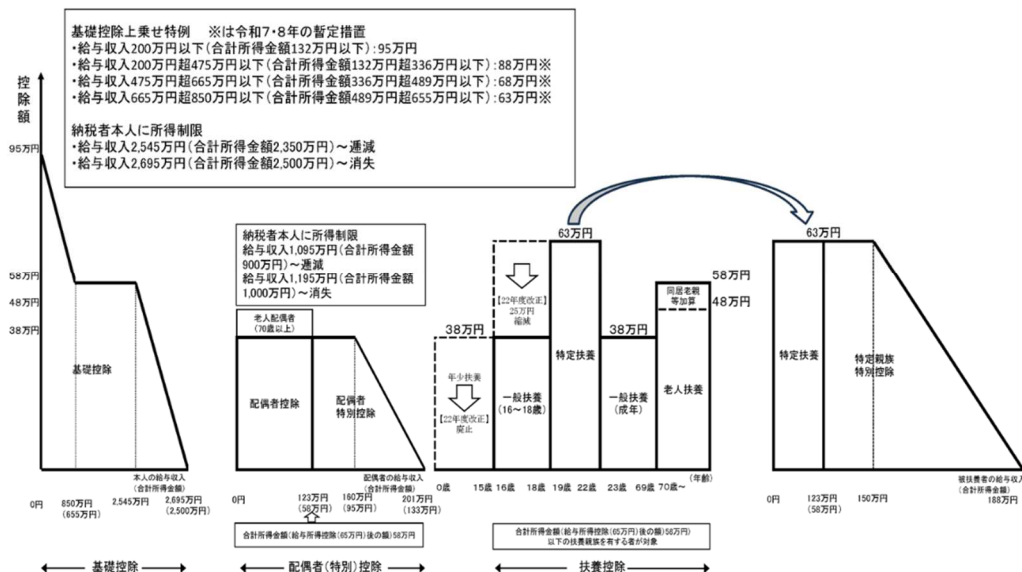


主な人的控除制度の概要



TAX ニュースレター

東 栄 税 理 士 法 人

03-6455-4187

<https://toeitax.co.jp/>

2025/08 月号

所得金額と税金③年収の壁と扶養親族

2025 年からは 160 万の壁

(前号の続き) では最後に今年大幅な改正のあった年収の壁問題や配偶者控除等への影響について合計所得金額が低い方から確認していきましょう。

①原則所得 45 万(給与(年収)に換算すると 110 万)

住民税の壁、住民税が課税されないいわゆる「住民税非課税世帯」が最初に来ます。正社員等で働いている現役世代は明らかに住民税非課税世帯にはならないので、実質的に住民税非課税世帯とは現役引退した高齢者のみということになりよく聞く「住民税非課税世帯への給付」とは高齢者への給付をカモフラージュするための言葉であることが分かります。

②所得 58 万(年収 123 万)

配偶者控除、扶養控除の対象となる**税金上の「扶養」の上限となる壁**です。ただ配偶者控除については後述の配偶者特別控除がありますし扶養控除も 19 歳から 22 歳までの大学生等は新設された特定親族特別控除があるので留意しましょう。

配偶者控除や扶養控除は

③所得 65 万(年収 130 万)

税金ではありませんが社会保険扶養者となるための壁。専業主婦はこの壁を最も気にしています。なお大企業の場合は年収 106 万等。

④所得 85 万(年収 150 万)

大学生等が特定親族特別控除として扶養控除と同じ 63 万控除の対象となるための壁。

⑤所得 95 万(年収 160 万)

これが 103 万の壁に代わる所得税が課税されない新しい壁ですが、配偶者特別控除において配偶者控除と同じ 38 万控除の対象となるための壁でもあります。この壁を気にする専業主婦も多いのでは。

⑥所得 132 万(年収 200 万)

基礎控除が満額 95 万取れなくなる壁。この所得を超えたとしても 2026 年までは緩やかに逡減しますが 2027 年からは一気に 37 万円控除額が減ってしまいますので影響は大きくなります。(次号へ続く)

今月のコメント

いつの間にかもう始めて 5 年以上経ちますが、ダイエットと健康を兼ねたジョギング生活はいまだに続いていまして、今年はついに某ハーフマラソンにチャレンジすることになりました。結構人気の大会なので数年エントリーしては抽選漏れしていたのですが、今年は少しコネも使い裏口(?)で見事に当選しました。11 月の大会なのでこれからペースを上げて完走できるように練習に励みたいと思います。

ただそれでもこの夏の猛暑は厳しくていつも朝 9 時頃から走っていたのですがあまり走れず、たまに頭もボーっとしてきたりするので練習時間を確保するのも難しいです。最近気付いたことは今の時期であれば朝より夕方以降の方が走りやすいということです。やはり今は気温云々というよりも何より日光がヤバいのです。日光さえ避ければ意外といけます。結果はまたこちらに記載したいと思います。2.3 か月後のニュースレターで触れなければ完走はできなかったとご推察ください(笑)

税理士 岡本勲

Email : okamoto@toeitax.co.jp

東栄税理士法人